

令和6年産 コメ通信

第5号（令和6年6月26日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

茎数を確保して適期中干しを！

1 気象経過と生育状況

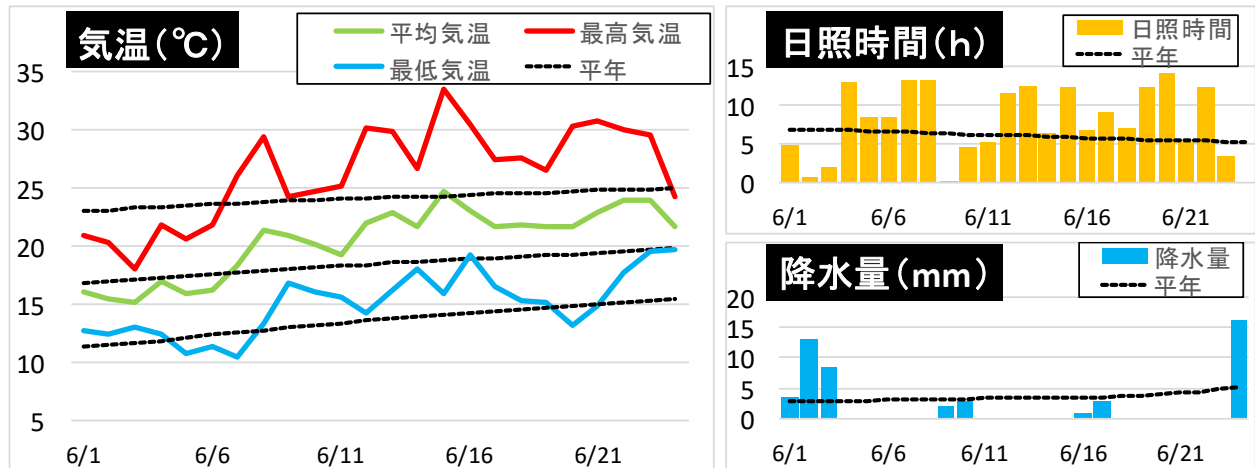


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

【気象経過及び1か月予報】

- 6月2半旬以降の気温は高めに推移しました。また、降水量は平年より少なく、日照時間は多くなりました（図1）。
- 仙台管区气象台によると、東北北部は6月23日頃（平年差+8日）に梅雨入りしたとみられています。
- 6月20日に仙台管区气象台が発表した、東北地方の向こう1か月の予報は、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込みです。いもち病の発生等に注意し、適切なほ場管理を行ってください。

【生育状況（定点調査結果）】

- 6月25日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）は、草丈は平年よりやや長く、茎数と葉数は平年より多く、葉色は平年並となっています（表1）。
- 6月2半旬以降が高温だった影響で、生育が早まっています。また、気温日較差が大きい日が多かったため、茎数が急激に増加しました。ただし、分けつの発生は田植日や水管理方法によって、ほ場間差の大きい状況が続いています。
- 目標穂数と同等の茎数を確保しているほ場もみられます。次ページを参考に、適期中干しを実施しましょう。

表1 定点調査結果（6月25日）

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色
本年	40.7	508	9.6	44.2
平年	39.5	473	9.0	43.6
前年	43.9	437	9.3	43.1
平年比較	103%	107%	+0.6	101%
前年比較	93%	116%	+0.3	103%

※平年は過去10か年の平均値を示す。

※葉色はSPAD-502で測定した。

2 今後の水管理

【中干しによる弱勢茎の抑制】

※茎数が少ない場合は強い中干しを避けてください。

- 目標穂数と同数の茎数（あきたこまちは70株植で1株あたり20本程度、60株植では1株あたり25本程度）を確保したら、直ちに中干しに入りましょう。
- 中干し期間は7～10日間程度とし、田面に亀裂が1～2cm入り軽く足跡のつく程度として、幼穂形成期までに終わります。終了後は間断かん水により土壌を酸化的に保ち、根の伸長を促進します。
- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を行います。長期間の湛水管理に備え、中干しはしっかりと行うようにしてください。

3 主要病害虫の防除対策

※生育が早まっているため、防除のタイミングを逃さないよう注意しましょう！

【いもち病】

- 補植用余り苗をまだ処分していない場合は、それが強力な伝染源となります。水田から畦畔に移動するだけでは防除対策になりませんので、泥の中に埋めるなどして、完全に処分してください。
- 北秋田管内では、大館で6月24日が感染好適日になりました。感染した場合は1週間程度で発病しますので、病斑を発見したら直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン、ノンブラス等）を茎葉散布してください。また、必要に応じてビーム剤の追加散布を行ってください。

◆農薬の使用回数に注意！

ラブサイド剤（ブラシン剤等含む）の成分である「フサライド」や、ビーム剤（ノンブラス剤等含む）の成分である「トリシクラゾール」の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内となっています。農薬は使用する度に帳簿に記載し、総使用回数を超えないよう計画的に使用しましょう。

【紋枯病】

- 病害虫防除所によると、紋枯病の発生時期は平年より早く、発生量が多いと予想されています（6月25日発表）。
- 前年多発したほ場で、本病を対象とした育苗箱施用剤を使用していない場合は、モンガリット粒剤またはリンバー粒剤を水面施用してください。

【斑点米カメムシ類】

- 斑点米カメムシ類は、休耕田や畦畔等のイネ科の雑草で増殖し、これらが水田内に侵入して加害します。昨年、斑点米が多かったほ場では、今年も多く発生することが予想されます。
- 出穂の10～15日前までに、畦畔や休耕田、雑草地を対象に地域でまとまって草刈りを徹底して行い、斑点米カメムシ類の生息地における密度低下に努めます。
- アカスジカスミカメは、水田内にカヤツリグサ科（ホタルイ類等）やノビエが多発していると、その雑草の穂に産卵し増殖します。除草剤を適切に使用し、水田内の雑草防除を徹底しましょう。

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は7月上旬頃～